
ハローストレンジャー

夕焼け

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ハローストレンジャー

【Nコード】

N2017I

【作者名】

夕焼け

【あらすじ】

声が聞こえる。声が聞こえる。

十字路を右に曲がる。
それが何度目の間違いであったか、
僕にはもう分からない。

その日僕は教会を目指していて、
手渡された地図には、
あらゆる十字路をただ直進するべきだとだけ記されていた。

二つ目の十字路まで地図に従い、三つ目の十字路で僕は左に折れた。
それから幾つ目かの十字路を右に曲がった時、僕は自分が道を見失
った事に気づいた。

見知らぬ誰かが僕にハローと言う。
それはまるで悪魔の声であるかのように思えて、だから僕はその声
を無視してただ教会を目指した。

地図にはあらゆる十字路を曲がらず直進せよと書いてある。
けれど僕は曲がってしまった。
間違いをした地点に戻る事ももう出来ない。

今更直進のルールを守ったところで、もう教会にはたどり着けない
だろう。
だから僕は右折と左折を繰り返す。
そしてその度に事態は一層悪くなる。

見知らぬ誰かがまた僕にハローと言う。

それもやっぱり悪魔の声であるように思えて、だから僕はその声を無視して再び教会を目指した。

主人公の男が、自らの愚かな選択のせいで災難な目に遭う映画を思いつく。

初めてその映画を見た時僕はまだ幼くて、彼の滑稽さがただただおかしくて、僕は最初から最後までげらげら笑っていた。

二度目にその映画を見たのは15歳になったくらいの頃で、これほどに愚かで、これほどに不運な人間がこの世にはいて、自分の人生はそれにくらべたら随分ましなものだと思って妙に安心したのを覚えてる。

そして今、その映画を思い出して僕が感じているのは、あの主人公はまさに僕のような人間を描いたものだったんじゃないのか、という事だ。

見知らぬ誰かがまた。

ハロー。

その声は悪魔のそのように聴こえたけど。

それが見知らぬ誰かの声であったか、僕の声であったか。

きっと誰もが、正しい道をまっすぐ行けばいいことを知っていたのだけれど、それを出来ずにどこかで横の道に逸れる。

気付けば正しい道がどれなのかも分からなくなって、その間違
った道で出会う何もかもが間違ったものに見えてくる。

きつと背負った十字架を路肩のドブに放り込んで、悪魔の声に耳を
傾けるべきなんだろう。

そもそも、教会まで真っ直ぐ突き進めと僕に告げた彼の声が、悪魔
のそれじゃなかったとは言い切れないのだ。

次の十字路で出会った誰かの声に、僕はハローと答えようと思う。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2017i/>

ハローストレンジャー

2010年10月11日23時46分発行